

# ゆったりまったり の～んびり 石垣島

「かーちばい」が吹いたら本格的な夏の始まりと言われる石垣島。

シーズンは梅雨の少し前の満月ごろから始まる。

太陽のシャワーが心地いい砂地や地形に、後光が差しているようなマンタ。

また、満月付近の夜の海では、神秘的なサンゴの産卵も……!?

若手ガイドが案内するの～んびりな石垣島は、

今まで見てきた風景も新鮮に思え、船上からにぎやかで心が弾んだ。

UNARIZAKI  
DIVING TEAM  
ISHIGAKI

真っ青な空にもくもくとフォトジェニックな雲が広がる日、向かったのは「灯台下迷路」。その名の通り、白い灯台が丘の上であり、ダイビングポイントはその真下だ。

実はこのポイント、越智カメラマンも今回初めて潜ったそう。小さな洞窟の入口を抜けるとその奥は大きくひらけており、あちこちから光が差し込んでいる。「どこかのお城のテラスみたい!」というスレートを書いたのはダイビングチームうなりざき石垣のガイドのゆっこさん。お城のテラスの光を浴びれば、気分はもうお姫様ようだ。

一際光が強く差し込んでいる場所があっ

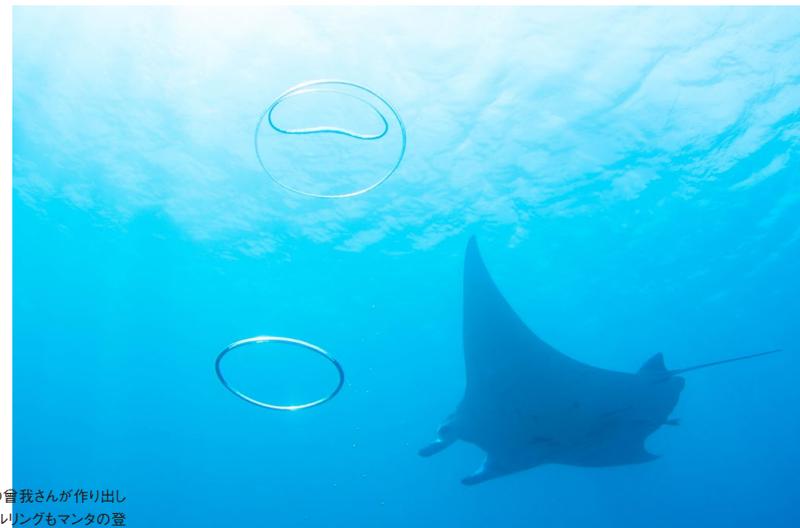
た。洞窟に来たときは、ちょうど太陽が真上で、さらに運良く快晴だったこともあり、木漏れ日が差し込むようなとても美しい光景を目にすることができた。光の中に入ってみると、太陽の光でほんのりあたたかい。森林浴や海水浴ならぬ、海中浴といった感じだ。太陽のスポットライトを浴びると光の中から撮影者は見えなくなってしまうので、もしこのポイントにパティと潜って撮影し合うなら、あらかじめ打ち合わせをしておくと言気のある写真を撮影できる。もちろん、心の意思疎通も大事だ。「灯台下迷路」は、石垣島のトップ3に入るオススメポイントになった。

お姫様!?  
もう気分は

快晴の日、太陽が真上にあるお昼の時間帯を狙えば、強い光の差し込む神秘的な光景を目にすることができる



石垣島のマンタを観察するときのルールは着底。うっかり根の上を超えてマンタと間違えられないようにしましょう



ガイドの曾我さんが作り出したバブルリングもマンタの登場にビッグスマイル

マンタ出現にも  
バブルリングも  
超笑顔！



マンタが頭上来たら、なるべく息を吐かないようにすると長時間滞在してくれるかも

うなりざき石垣からだ、3つほど岬を回ったコーナーに有名な「マンタスクランブル」と「マンタシティポイント」はある。2つのポイントの距離は300mほどしか離れていないが、近年はマンタがクリーニングにやって来るメインの根が「マンタシティポイント」になったので、多くの船はこちらに来るようになっている。

エントリーしてすぐにマンタがクリーニングステーションにやって来た。

着底して観察するというのが石垣島のマンタを見るときルールなので、クリーニングステーションにいるときにはなかなか近寄ることはできないと残念がっていたら、メインガイドの曾我さんが得意のバブルリングを出してマンタを飾ってくれた。事前に打ち合わせをしておけば、マンタの周りをバブルリングで囲うこともできたのかな？ 次に行ったときにはお願いしてみよう。



トップデッキに登れば、水面を泳ぐマンタが見えるかも!?



港からマンタポイントまでは、岬を3つ回るので、フォトジェニックなポイントがたくさん!

ゆったりまったりの～んびり 石垣島

コモンシコロサングに群れる  
かわいいスズメダイたち



疲れたら、砂地に寝転がってひと休み。大きく深呼吸して海を感じてみよう



# 遊ぼう！ おもいっきり きれいな白砂で

みんなのアイドル亀の  
カメキチ。驚かさなければ急接近もできる



石垣ブルーに  
白い雲がもくもくと映える

透明度のいい石垣の海は、  
下から見上げたシルエットも  
カッコいい



スケボーならぬマリボー！  
フィンを脱ぐと中性浮力が失  
われるので注意して

23歳と24歳のかわいい女性ガイド、ゆっこさんとミハスさんと、船の上でキャッキャッと女子トークをしながら向かったのは、白砂が広がるポイント「大仏」。エントリーしてすぐに大仏の頭みたいなコモンシコロサングの上に淡い水色のスズメダイが群れている。サンゴを過ぎて少し進むと白砂以外なものもない！というひらけた場所がある。そこに着くや否や、マスク越しのゆっこの目には「遊ぼう！」の文字。フィンを脱ぐとつま先がヒヤッと冷たい。フィンのかかとの部分を組み合わせてフィンボードにしたり（フィンが重いから沈む沈むと大騒ぎ）、そのまま走ってみたり。

「大崎タートルリーフ」では、ミハスさんが「ここがきれいな人にはハートに見える」と

いうインギンチャクとクマノミの幼魚を紹介してくれ、カメと一緒に泳いで遊んだ。ガイド2人のスレートに書いてくれる言葉がおもしろくて楽しくて、普段だったらなんてことない光景でも、すぐ特別なシーンを演出してもらっているようだった。



気持ちのいい砂地では、フィンを脱いで遊んでみよう……あれ、マンタに見える!?

## ゆったりまったりの～んびり石垣島

梅雨の時期は、陸上は天候に悩まされることが多くても、海の中は新しい命で溢れている。交接、産卵、卵保護、そしてかわいい幼魚たち。

「じゃがいもの根」では、黄色い身体が青い海に映えるヨスジフエダイやスカシテンジクダイが、がさっと群れている。

6月くらいからスカシテンジクダイやキンモドキの数は急激に増えてくるので、画角いっぱいにして写してみるのもいいし、スカシテンジクダイのリズムに合わせてまみれてみるのもおもしろい。人間にとっては銀色の小さな魚でも、このクマノミにとっては、満天の星なのかもしれない。

# 海の中に 満天の星 みい〜つけた！

これからの時期スカシテンジクダイの数も急激に増える。真ん中のハマクマノミがアクセントになってかっこいい！



ゆったりまっぴりの〜んびり 石垣島

2017 Summer [Ishigaki Is.]



ナイトダイビング時に撮影した寝ているイロブダイ。こんなふうな切り取りもオシャレだ



白くて大きな帽子をかぶったユキンコ。「なあに〜？」と話しかけているみたい

さかなたち  
かわい  
しやべり出しそ  
うな

ワイドダイビングの次は、砂地や根に生息する生き物たちに目を向けてみた。

石垣島のいいところは、深場に行かなくても、フォトジェニックな生物がたくさん生息しているということだ。ガイドの太志さんが数日前からこのポイントにいるのを確認していたというユキンコは、海綿の脇から「なあに〜？」と覗いているようでとてもキュート。こういう被写体に、じっくり時間をかけて撮影できるのは、フォト派ダイバーにとってはとてもうれしい。また、この時期特有なのは、お腹の大きいタツノハトコ。子どもを育児嚢で大切に育てているオスの姿は8月くらいまで見られるとのこと。

生態にも詳しくガイド経験も長い曾我さんや太志さんに、こんな魚が見たいとリクエストしてみるのがオススメ。

写真映える黄色いギンガハゼ。個体によってはかなり近寄ることができる

- 01,アカネハナゴイのオスとメス。メスはあまりにも小さい……まさか年の差カップル!?
- 02, お腹の大きなタツノハトコはこの時期限定
- 03, 珍しいピカチュウ (左) や、リュウグウウミウシ
- 04, 白化したイソギンチャクに棲むハマクマノミ

- 05, 発色が美しいハナヒゲウツボ
- 06, 目がダイヤモンドみたいにキラキラ輝くハダハカオコゼ
- 07, アカネハナゴイのメス。青抜きで撮影すると優しい雰囲気になる
- 08, ハマクマノミの尾。頭隠して尻隠さず
- 09, イロブダイの胸びれもオシャレだ
- 10, シロボシズメダイ



## ゆったりまったりの〜んびり 石垣島

2017 Summer [Ishigaki Is.]



ミドリイシ系のサンゴの産卵を撮影するために取材中の全期間潜り続けた。ガイドの曾我さんは先に入って産卵しそうなサンゴに目星と印をつけておいてくれた



昨年に引き続き、サンゴの産卵を撮影すべく、そのために暦を調整して石垣島に入った。5月の満月の大潮回りでは、ミドリイシ系のサンゴがメインで産卵する。うなりざき石垣では、産卵の可能性のある満月の3日前から調査として潜り始めた。時を同じくして取材班も石垣入りしたので、可能性が1%でもあるならとついて行く。しかし、産卵しなかった。このあと4日ほど同じことが続いた。朝からダイビングロケをし、帰ってきてコンビニでお弁当を買い、カメラとライトを充電して、そのお弁当をかつこむ。昼間の取材から戻って1時間半後にはまた船に戻り海へ出るという生活が約1週間続いた。帰ってくるのはいつも24時近かった。心身ともに限界が近づいていた5日目、待ちに待った時が来た。まず19:30ごろにエントリーすると、ハナガタサンゴが火山の噴火のようにポフポフと産卵をはじめた。

その日の22:00ごろ、ミドリイシが産卵した。こちらはハナガタサンゴとは違って、お上品に、ポロポロとバンドル（精子と浮力を持つ卵が包み込まれた幼生）を放出した。神秘的……何度見ても「神秘的」という言葉しか思いつかない。卵（正式には卵ではないのでバンドルと呼ぶ）が放たれた海中は、まるで満天の星の下か、宇宙にワープでもしてしまっただけのようだ。

個人的には、今年初めて見たハナガタサンゴの産卵の迫力に興奮した。昨年見た感動的なこの景色をまた見たいがために、1週間朝も夜も潜り続けたのだが、それほどまでする価値以上のものがサンゴの産卵にはあると確信している。きっとまた来年もこの景色を見に、撮影するために、戻って来るのかもしれない。

# 神秘的な サンゴの産卵を 見るため、 1週間潜り続けた



## 真っ青な癒しの石垣島へ

「ゆったり、ゆったり、のんびりいきましょ～!!」ブリーフィングのあと、決まり文句のようにうなりざき石垣のスタッフはこの言葉を口にする。

聞いているうちになんだか耳ざわりが良くなってきて、この言葉を聞いたら、さあ潜るか!と気分が上がる。スタッフは、元気ハツラツでいつも笑顔満開のゆっこさんとミハスさん、そしてアツクスズメダイに似ていると取材中話題をかっさらった太志さん、おもしろいことが好きなのに、ちょっとクールにガイドをする、魚にも詳しい曾我さんの4名。

2隻のダイビング船を駆使して、なるべくゲストのリクエストに沿うようにスケジュールを調整してくれる。どんなゲストのリクエストにも応えるというオールマイティさと全力を注ぐ姿勢が、うなりざき石垣をレポートする理由の1つだろう。

サンゴの産卵データも充実し始めた2017年。石垣島に来たら泡盛に石垣牛にと、夜は飲み歩きたいダイバーも多いかもしれないが、1度見たらやみつきになるサンゴの産卵、可能性があるのならチャレンジしてみたいかがだろうか?

### ダイビングチーム うなりざき石垣店

〒907-0013 沖縄県石垣市浜崎町3丁目 2-1-102  
Tel.0980-88-6644 Fax.0980-87-0145  
<http://www.unarizaki.com/ishigaki>  
☎info-ishigaki@unarizaki.com



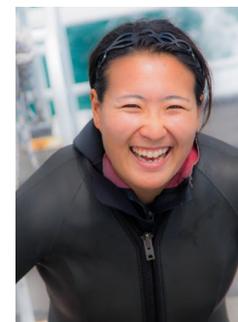
**SOGA ISAO**

クールにふるまう一方、おもしろいこと大好きなメインガイド。生物のマニアックなことが聞きたかったら遠慮なく聞いてみよう!



**YAMAUCHI YUKIKO**

マツエクかと思われるほどのふさふさのまつげがトレードマーク。取材中、ヒトスジギンボに似ていると発覚してから、水中で見ると思い出してしまう



**TAGUCHI MIHASU**

14年間の競泳人生に終止符を打ったことでイルカに目覚め、そのあと石垣に目覚めた。満開の笑顔につねに癒される



**TAKANASHI TAISHI**

ジャイアントベイビーの異名を持つアツクスズメダイ似のガイド。人を笑わせる天才でもある

ゆったりまったりの～んびり 石垣島

2017 Summer [Ishigaki Is.]